

16

ミャンマー/ヤンゴン

総面積：1,043.57km² / 人口：514万人 /
人口密度：16,000人 / km²



都市の現状

ミャンマー最大の経済中心地であるヤンゴン管区は、人口約740万人を擁している(2014年国勢調査)。年間成長率2.6%を適用すると、将来人口は2030年には巨大都市になる。これはミャンマーで最も人口の多い市街であり、商業の中心地である。この都市の面積は9,178.96平方キロメートルだが、このうちヤンゴン市開発委員会(YCDC)が管理する区域は1,043.57平方キロメートルのみである。

現在、ヤンゴン管区は合計44のタウンシップで構成されており、そのうち33のタウンシップがYCDCの所管区域となっている。現在の急速な都市化は、ヤンゴン市内の老朽化した既存インフラにますます負荷をかけ、都市環境の悪化に対する懸念が高まっている。このような大都市を管理し、大規模な人口を適切かつ積極的に収容するためには、積極的な民間活動や市民の理解と協力などと緊密に連携しながら、政府主導により、適切なインフラを備えた段階的な都市開発が求められている。ヤンゴンは急速な都市化による渋滞、自然災害、公共サービスなどの問題に直面している。

スマートシティ行動計画

ビジョン：市民が透明性のある分かりやすい情報の流れを享受できるスマートシティを構築する。

重点分野：街並み整備、ゾーニング規制、防災

Project 1：ヤンゴン街並み保全及びCBDの整備

CBDの洪水防御が優先されている。都市開発における洪水への強靱性と遺産の保全は2019年半ばから2021年までに実施される。ヤンゴンの電子地図を作成し、ヤンゴンゾーニング土地利用計画図を作成するため、ヤンゴン市の都市遺産保護団体「Yangon Heritage Trust」と連携し、ヤンゴン遺産の保全に取り組み、ヤンゴン管区南西部の電子地図化を計画している。また一方、CBDの街並み整備もJICAやNGO組織連携によるインフラ開発プロジェクトの1つである。その結果、街並みの改善のみならず、安全性、快適性、遺産とのつながりや人々の活動に資する公共サービスの提供にもつながる。

Project 2：地理データベースシステムの構築

ヤンゴンの1:5,000デジタル地形図を作成するにあたり、既存の土地・建物の情報データベースと特徴データ(専有面積、土地区画など)を照合しリンクする。YCDC管轄のタウンシップがそのパイロットプロジェクトに選定された。このプロジェクトの成果は、1)土地と建物の情報のマッチング結果を含むGISデータベース、2)ヤンゴン管区の公共サービスのためのオンライン地理空間情報システムである。

取組み状況

- Alley Garden プロジェクトをDoh Eain (NGO)がYCDCと実施した際、路地を社会実験の対象とした。ダウンタウンの10のパイロットエリアのうち、8つのエリアが同プロジェクトに選定された。住民、タウンシップやワード(小区)の職員、議会議員、YCDC各部署担当者など多くのステークホルダーが関与した。
- ヤンゴン地域の連続観測基準点(CORS)でデータを確立することにより、GISシステム(YCDC地域(1,500km²)に対して1:5,000、ヤンゴン地域の南部郊外(1,100km²)に対して1:10,000)を構築し、都市開発の構築を維持する。
- 限られた区域での大規模な移住と大規模開発のため、ゾーニング規制と検証システムがヤンゴン全域に必要である。持続可能性を達成するために、YankinとHlaingタウンシップで適切なゾーニング規制を試験的に実施している。他のタウンシップでのゾーニング規制は、現在準備中である。
- 災害及び災害リスク管理のための情報ベース及び都市レベルとそれ以下(世帯レベルまで)での意識、備え、能力開発に関する情報について、実状(特にヤンゴン)を分析した結果、選定された4つのタウンシップから約450世帯がヤンゴンにおける異常気象時の多重リスクマネジメントのパイロットプロジェクトとして選定され、調査が実施された。

